

7) ユニバーサル(次世代)食器に関する研究

納富 悟・吉田秀治

今後、急速な高齢化していく社会に対応した食器の商品開発は効果的な販路開拓になると考え、誰にでも使いやすい食器を「ユニバーサル」というキーワードのもとに、使用頻度が多いマグカップとプレートのデザインを行い、そのデザインによるマグカップとプレートのユニバーサル(次世代)食器の試作を行った。

1. はじめに

景気回復が期待される中で、陶磁器業界を取り巻く環境は変化を続けている。80,90年代に有田の陶磁器製造は高級化志向へ進み、生産量や生産額は著しい成長を見てきた。ここ数年製造業は色々の問題(需要の低迷、経営コスト増大、製品単価の低下、価格破壊、消費者ニーズの変化、新業態の台頭等)を抱え苦悩している現状にある。2000年に入っても生活スタイルは変化し続け高級化志向から多様化志向へ推移した。「量から質へ」多品種少量生産への転換が叫ばれて久しいが、磁器製品の商品価値を保ちつつ、この生活スタイルの変化に即した創造的商品開発が必要になっている。今日、食生活や生活環境が大きく変わり、核家族化と単独世帯の増加や少子高齢化の進展により、需要構造も大きく変容を遂げている。生活環境と生活者ニーズの変化が需要の質的变化をもたらしており、新たな商品開発、デザイン開発、販路開発が重要になっている。特に、急速に進展している少子高齢化社会に対応して、バリアフリーの展開や新規ユニバーサルデザインの開発が産地継続のためにも必要になっている。

2. 開発趣旨

有田焼産地は主力を業務用食器に置いた開発姿勢にあるが、日用食器製品の開発への検討検証も徐々に進みつつある。一方、市場の変化を見ながら再活性化を優先させたデザイン開発が盛んに行われるようになってきた。しかし、商品の寿命は短命化の傾向にある。

消費者側の観点では「いっぱいあり過ぎて何がなんだかわからない」と言った状態にある。したがって、製造者側は、生活者の内面・内部を見つめながらのきめ細かな新規デザイン開発と販路開発が必要となってきている。そこで、食卓の上においても少子高齢化に順応したバリアフリーの考えの展開、ユニバーサルデザインの開発が必要と考え、「ユニバーサル」という機能性に加えて「安全」「健康」「環境」という三大本質価値の実現と中期的なブランド開発の重要性を見直し、家族の誰もが心から食事が楽しめる次世代食卓シーンを演出するアイテムの開発を行った。

3. ユニバーサル食器の開発

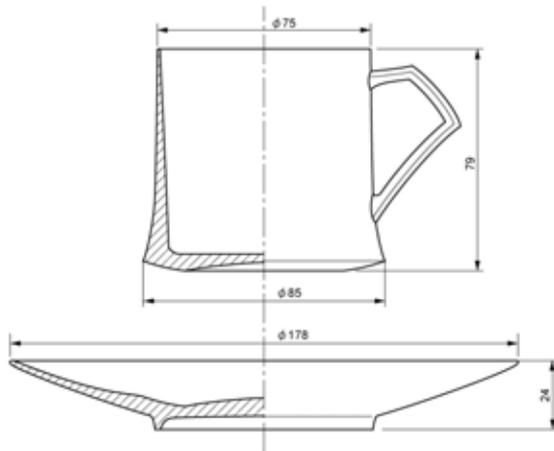
3.1 マグカップの開発

3.1.1 滑りにくいマグカップの開発

カップに高台を設けず、ソーサーとカップの接地を線から面へ変更して滑りにくい形状のマグカップをデザインして試作を行った。



滑りにくいマグカップ：高台なし(全体)



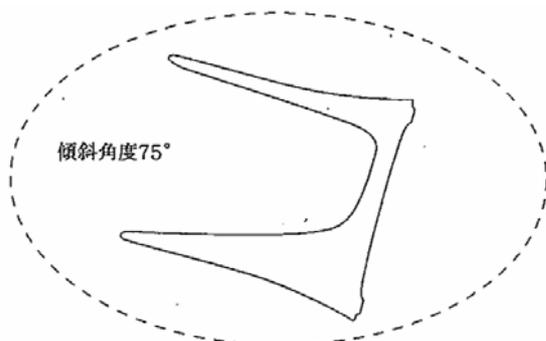
滑りにくいマグカップ：デザイン（図面）

3.1.2 飲み尽くしやすいマグカップの開発

飲み口に傾斜を持たせ、マグカップ中の飲料を全部のみ尽くしやすい形状で、しかも、側面を中空構造とし保温機能を付加したマグカップをデザインして試作を行った。



全量を飲みつくしやすいマグカップ
（飲み口が一方向に傾斜している）



マグカップ・ポディー部分の断面図

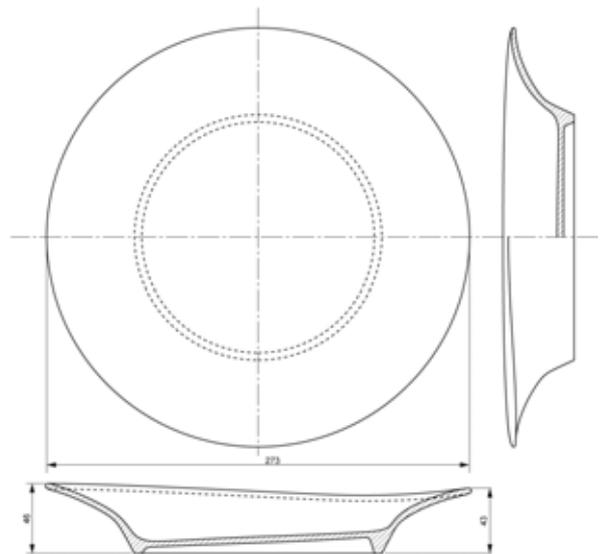
3.2 プレートの開発

3.2.1 すくいやすいプレートの開発

プレートの片方に底面が傾斜させ、また、プレートの淵の立ち上がりの傾斜を急にして「すくいやすい」形状のプレートをデザインして試作を行った。



片方に底面が傾斜したプレート
（すくい易く、料理の水気が切れやすい）



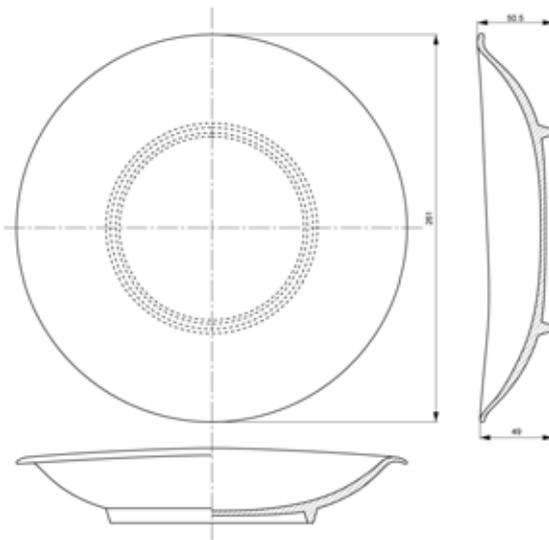
片方に底面が傾斜したプレート
（デザイン図面）

3.2.2 塩分摂取を抑えるプレートの開発

プレートの底面中央部をへこませて料理の汁気と具材を分離し、料理の汁気から摂取される塩分を抑える形状のプレートをデザインして試作を行った。



底面の中央部が下がったプレート
 (すくい易く、料理の水気が切れやすい)

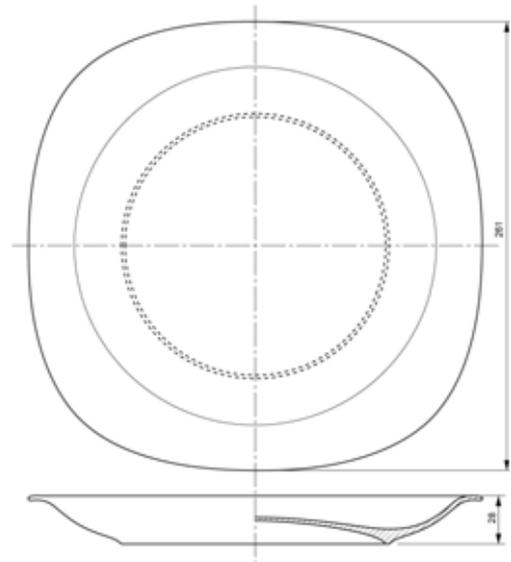


底面の中央部が下がったプレート
 (デザイン図面)

3.2.3 使用に違和感のないユニバーサル食器の開発
 食事をとりにくい人も使いやすく、一般食器と一緒に使用しても違和感があまりない形状のユニバーサル食器をデザインして試作を行った。



通常食に使用するプレート



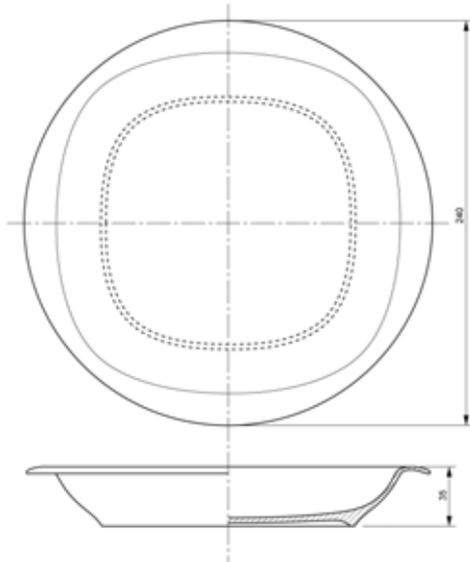
通常食に使用するプレート
 (デザイン図面)



組皿としてプレートを使用したときの状態



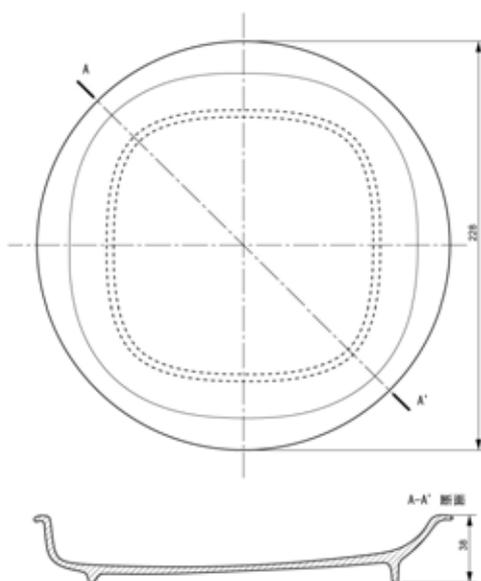
わずかに食事をとりにくい人が使用するプレート



わずかに食事をとりにくい人が使用するプレート
(デザイン図面)



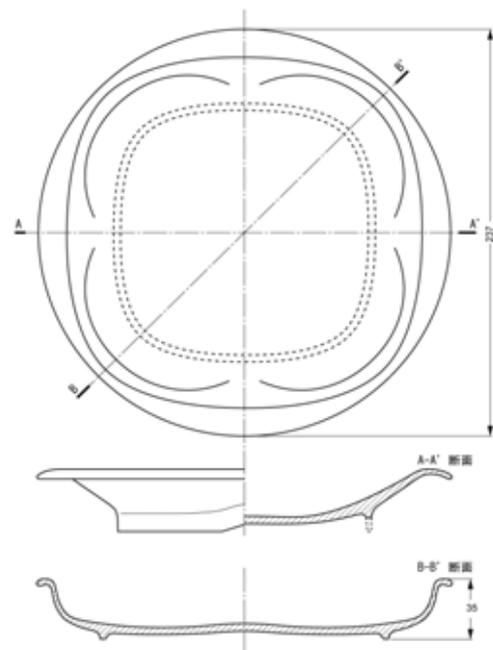
少し食事がとりにくい人が使用するプレート



少し食事がとりにくい人が使用するプレート
(デザイン図面)



食事をとりにくい人が使用するプレート



食事をとりにくい人が使用するプレート
(デザイン図面)

4. まとめ

プレートとマグカップをそれぞれ『誰にでも使いやすい(ユニバーサル)』というコンセプトの基にデザインを作成して試作を行った。その試作品を実際に使用して使いやすさを検証・検討した結果、コンセプトどおりのものを製作することができた。